５年１組　社会科学習指導案

５年１組　　指導者　櫻庭　卓也

本小単元で目指す授業
ICT 機器を活用し，児童の学びを進める。青森県西部(津軽地方)で生産されている「青天の霹靂」と「まっしぐら」について調べたことをもとに，高品質なものや付加価値のあるものを生産することについて，多角的に考える授業。

１　大単元名　「わたしたちの食生活を支える食糧生産」　小単元名　「津軽のこれからの米作り」

２　小単元の目標

○　我が国の農業における食料生産について，具体的に青森県西部(津軽地方)の米の生産に関わる人々を取り上げ，人々の協力関係，技術の向上などに着目して各種の基礎的な資料で調べ，まとめ，食料生産に関わる人々の働きを考え表現することを通して，食料生産に関わる人々は高品質なものや付加価値のあるものを生産することで食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を追究・解決し，学習したことを基に社会の一員としてこれからの農業の発展について考えようとする態度を養う。

○

３　目指す児童の姿に向けて

本小単元で目指す児童の姿

「まっしぐら」を生産するか「青天の霹靂」を生産するか話し合うことで，複数の立場を明確にし，それぞれのメリットもとに自分なりの考えを再構築し，互いに納得できる答えを導く児童

本小単元の主な手だて

・仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学び
・資料から得た情報と児童の認識にずれが生じる資料提示

本小単元で扱う題材について

生産者と消費者の願いにこたえるため，米の品種改良が青森県でも行われている。「青天の霹靂」は厳しい栽培基準や出荷基準のもと食味ランキング５年連続特Ａを獲得し，高値で取引されている。一方「まっしぐら」は低価格帯の米であるが中食・外食の増加に伴い，一般消費だけでなく業務米としての需要が伸びている。生産者は今後，消費者の需要や願いに応じながら生産を進めていく必要がある。

本小単元で育みたい資質・能力

○自分なりの考えや選択・判断した理由を明らかにすることで，複数の立場を明確にし，それぞれのメリットもとに自分なりの考えを再構築する力。

主に働かせる見方・考え方

青森県西部(津軽地方)の米の生産に関わる人々が品種改良を行い高品質なものや付加価値のある米を生産することを工夫や努力の視点で捉え，複数の立場のメリットや願いを関連付けること。

児童の実態

・社会的事象に関心を持ち，資料から具体的な情報を獲得し，比較することができる。また，読み取った情報を根拠として自分なりの考えを記述することができる。
・話合いを通して，互いの考えを総合したり，関連付けたりして自分なりの考えを再構築できる子は少ない。

４　仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学びについて

新型コロナウイルス感染症に対する備えとして，また，GIGA スクール構想で一人一台 ICT 機器を用いて学びを進める姿を想定して児童の学びを進める。

●仮想オンライン学習とは，児童が ICT 機器に向かって行う学習形態で，主に教室等で学級全体が集合して学ぶこと想定したものである。具体的には，課題把握における動機付けや方向付け，課題追究における考察・構想の場面である。特に，考察・構想の場面では，仮想オフライン学習での児童の考えを全て，ICT 機器上に提示することから児童の学習の意欲を喚起することにつながると考える。また，ICT 機器上にあるので，児童自身が欲しい情報や友達の考えを瞬時に獲得することにつながり，考えを再構築する一助になると考えられる。

●仮想オフライン学習とは，児童が ICT 機器から離れて行う学習形態で，主に家庭において一人で学ぶことを想定したものである。課題追究における情報収集の場面で，児童が自分の裁量の時間で資料を探したり，資料から得た情報を整理したりすることで，考察・構想の場面での学びでたくさんの考えを表出させることで複数の立場を明確にすることにつながると考えられる。

●上記の仮想オンラインと仮想オフラインを交互に繰り返すことで児童の学びを進める。新型コロナウイルス感染症拡大予防のための臨時休校中の家庭でのオンライン学習を想定し，教室での学びは 15 分程度とする。家庭での学習時間も同程度を想定している。

●学校所有のタブレット端末の台数が十分でないことや Microsoft Teams は導入されたものの，校内での利用だけで家庭で利用できない等制約が多い状況であり，同じ効果が果たせる従来からある教具（黒板やホワイトボード，ノート等）を利用することも視野に入れる。

５　学習の展開

学　習　活　動 ・予想される児童の発言・思考	・教師の働きかけ　手だて　◎評価 ※提示する資料
仮想オンライン学習〈15 分〉 1　家庭でどんな米を消費しているか想起し，問題をつくる。 ・「まっしぐら」「青天の霹靂」「コシヒカリ」 消費者はどんな米を望んでいるのだろう。	※各銘柄米のパッケージデザイン ・家庭でどんな米を食べているかについて引き出し，調査活動のきっかけとする。
仮想オフライン学習 2　家庭で消費している米の銘柄，産地，その米を選ぶ理由を調べ， Microsoft Teamsに投稿する。	
仮想オンライン学習〈15分〉 3　調べたことを共有し，消費者はどのような米を望んでいるかを考える。 ・おいしさ(銘柄，産地，栽培方法)　・価格 4　消費者の願いを基に生産者の立場ではどんな米を生産するべきか考える。 ・消費者が喜ぶようなおいしい米で利益をあげる ・たくさんとれる米で利益をあげる。 ・病気や害虫に強く作りやすい米で利益をあげる	※ Microsoft Teams投稿画面 ・消費者の考えを「おいしさ」「価格」に集約する。 ◎ノート記述から，消費者，生産者双方の願いを関連付けてどのよう米を生産するか考えているかを評価する。　（思考・判断・表現）

消費者は「おいしさ」「価格」を考えて米を買っている。一方，生産者は消費者の願いをかなえながら利益をあげられる米を望んでいる。

仮想オンライン〈15 分〉

1　消費者や生産者の願いにこたえるために新しい品種改良が行われていることから問題をたてる。

品種改良はどのようにして行われているのだろう。

2　資料から得た情報を基に品種改良の仕組みについて話し合う。
- ・味の良い品種と寒さや病気に強い品種を交配している。
- ・１つの品種を作るために長い年月をかけて何度も交配を繰り返している。
- ・「青天の霹靂」は味が良く，高値で取引されている。また，病気や冷害に強く青森県の気候にあっている。

※青森県産業技術センターWebページ
※品種改良の仕方の図
※「晴天の霹靂」と「まっしぐら」系譜の図
※各銘柄米の買取価格のグラフ
◎ノート記述から，品種改良された米の特徴産業技術センターの人々の取り組みを根拠に消費者や生産者双方の品種改良のメリットを捉えているか評価する。（知識・技能）

消費者の願いと生産者の願いにこたえるために，青森県産業技術センターは味が良く病気や冷害に強い品種を開発している。

仮想オンライン〈15 分〉

1　自分が生産者だったら「青天の霹靂」と「まっしぐら」のどちらを生産するか判断する。
- ・消費者が喜ぶ味の良い「青天の霹靂」を生産するべき。
- ・高値で取引されている「晴天の霹靂」を生産するべき。

2　児童の認識と資料から得た情報のずれを生じさせ，問題をたてる。
- ・高く売れておいしい晴天の霹靂を生産しているのは４％しかいない。まっしぐらは６２％もいる。

事実と児童の認識にずれが生じる資料提示を行う。
※青森県主要品種作付面積推移グラフ
※各銘柄米の買取価格のグラフ
- ・「青天の霹靂」がたくさん生産されるはずなのに実際は少ないこと（ずれ）に着目させる。

なぜ，「青天の霹靂」でなく「まっしぐら」を生産する農家が多いのだろう。

仮想オフライン

3　問題に対して予想を Microsoft Teams に投稿する。
- ・「まっしぐら」の方がたくさん収穫できるのだろう。
- ・「晴天の霹靂」は高値なので売れないのだろう。

◎ Microsoft Teamsの投稿から，「青天の霹靂」や「まっしぐら」について何を調べればいいのか学習の見通しをもっているかを評価する。　（主体的に学習に取り組む態度）

・「まっしぐら」の方が生産しやすいのだろう。	
仮想オンライン〈15 分〉 4　課題に対しての予想を共有し，資料から得た情報を基に話し合う。 ・品種特性はどちらも青森県の気候に向いている。 ・「青天の霹靂」は作付地域や生産者が限定されている。 ・「青天の霹靂」は厳しい栽培基準がある。 ・「青天の霹靂」より「まっしぐら」の方が，収量が多い。 ・「青天の霹靂」出荷基準に満たないと安い価格になってしまう。 5　実際に生産者の声を聞き，もう一度判断する。	※ Microsoft Teamsの投稿画面 ※10a当たりの収量比較図 ※青天の霹靂生産マニュアル（簡易化したもの） ・仮定した収量と買取価格から収益を計算させる。 ・「青天の霹靂」がなぜ，出荷基準に満たないと安い価格になるのか考えさせ，次の発問につなげる。 ◎発言やノート記述から，「青天の霹靂」や「まっしぐら」を生産することのメリットを理解しているか評価する。（知識・技能）
もし，自分が生産者だったら「青天の霹靂」と「まっしぐら」のどちらを生産するかもう一度判断してみよう。	
仮想オフライン 6　もし，自分が生産者だったら「青天の霹靂」と「まっしぐら」のどちらを生産するか判断し，Microsoft Teams に投稿する。	
仮想オンライン〈15 分〉 7　判断を共有し，判断理由を明らかにする。 【まっしぐらを生産する】 ・価格は安いがたくさん収穫できるから。 「まっしぐら」は栽培基準がないので生産しやすいから。 【青天の霹靂を生産する】 ・良いものを生産して利益をあげることができるから。 ・青森の米がおいしいと評判にしたいから。	・Microsoft Teamsの投稿画面(投稿にさらにコメントを書き込む。) ・判断理由からそれぞれの立場を明確にし，メリットとデメリットを明示する。
仮想オフライン 8　話し合いを踏まえて最終判断をする。	◎Microsoft Teams の投稿から，これまでの学びを基に多角的に考え表現しているかを評価する。　（思考・判断・表現） ◎ノート記述から，双方のメリット，デメリットを踏まえ，どちらの米を生産するか自分なりの考えを明らかにして説明しているか評価する。（主体的に学習に取り組む態度）

授業後のミーティングの内容(以下の６点について話し合った)

①最終判断について

㊢最終判断で青天の霹靂を選択した児童はいたのか。

㊎結果は以下の通り。

表１　最終判断で青天の霹靂，まっしぐらを選択した人数の表

	青天の霹靂	まっしぐら
１組	２２	８
２組	８	２１

㊎多くの児童が栽培のしやすさからまっしぐらを選択すると考えたが，１組では，青天の霹靂を選ぶ児童が多かった。生産者の映像資料を見て，生産者の心意気という点に１組の児童は引っ張られたのかもしれない。

②授業終盤で児童に提示した映像資料について

㊢映像資料を見せるタイミングはあの場面が適切だったのか。

㊎本時のタイミングが一番よいと考えて提示した。青天の霹靂について調べ，青天の霹靂には厳しい栽培基準があることを児童は捉えていた。その上で，映像資料で青天の霹靂を生産する農家の思いに触れることで児童に判断させたかった。そのために，「どんな思い」というキーワードを言ってから，映像資料を提示した。

③本時で提示した資料(収量・栽培面積・買取価格)について

㊤本時で提示した資料で，ずれは生まれたのか。また，どの資料でずれを生じさせようとしたのか。

㊎買取価格は青天の霹靂が高い。農家の立場で考えれば，買取価格の安いまっしぐらより青天の霹靂を生産するであろうと考える。しかし，栽培面積で比較すると，青天の霹靂は青森県全体の４％しかないことがわかる。このことからずれを生じさせ，学習問題を設定させた。

㊢本時で提示した資料は青天の霹靂が有利に見えた。もう少し揺さぶりがあれば良かったのでは。

㊎もう少し揺さぶりがあれば最終判断は変わったのかもしれない。

④青天の霹靂について提示した資料について

㊤５年生の児童が分かるように提示した資料がよかった。しかし，情報量が多く，児童は資料から分かったことを話していたが，それが共有出来ていないようにも見えた。

㊎児童は資料を丁寧に読んでいた。児童が採り上げて得た情報を一つずつ取り上げてしまった結果として情報量が多くなってしまった。他の学級では，逆に限られた情報に着目して話し合いが進んだため，共有ができていた。

㊤資料から得た情報から，青天の霹靂，まっしぐらそれぞれのメリット・デメリットをもう少しはっきり対比させ，映像資料を提示することで，挑戦や努力といった生産者の心意気のようなものがより見えるし，青天の霹靂を生産したいという児童はもしかしたら増えたのかもしれない。

⑤仮想オンライン，オフラインの学びについて

㊢今回の小単元を展開してみて，メリットはあったのか。

㊎通常の授業では，全員発表するのは物理的に不可能である。今回のようにMicrosoft Teamsの投稿を活用することで，全員が自分の意見を発信できるし全員の考えを共有できる。そのことによって，児童の学習に参加する意欲が高まるのではないか。

　オンライン，オフラインと学びを交互に進めていくためには，オンラインで「児童が興味をもち，面白いと感じるもの」を提示し，オフラインで「自発的に調べたい，考えてみたい」とする必要があるが，そこに難しさを感じる。オフラインでの児童の記述を見ると，やや言葉足らずで説明不足の記述も見られたが，共有の時間にそこをはっきりさせることができるので，それでいいように思う。だからこそ，学級全体で話し合いを深めていく必要がある。

⑥社会科部の教材開発について

㊤高学年になると，教科書と資料集のみで社会科の学習を展開することが多くなるが，今回のように地域の素材を教材化することは大切だと思う。機会があれば，どんなことを考えて教材開発しているのか，発信しても良いと思う。

実践を振り返って

（1） 児童のアンケートから

本実践に関するアンケートを対象学級の児童に行い，結果をもとに分析をする。

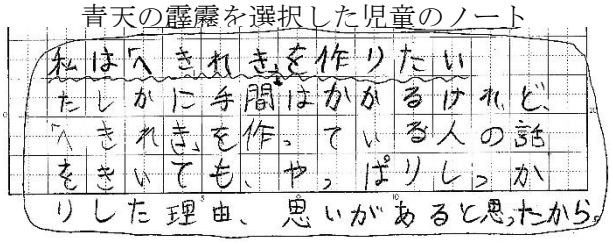
表２　本実践におけるアンケート結果　児童数 31 名　欠席１名　複数回答あり）

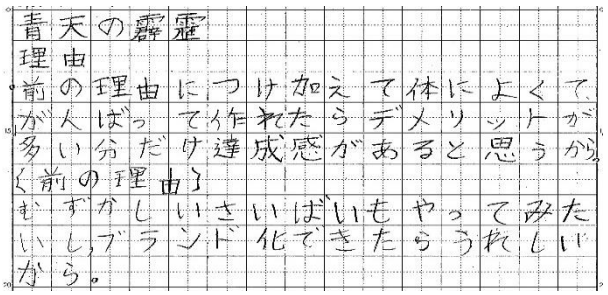
Q１今回のように Microsoft Teams を使って学んで，いいことはありましたか。	人数
はい	30
いいえ	0
Q２今回のように Microsoft Teams を使って学んで，どんないいことがありましたか。（複数回答あり）	**人数**
情報や考えを共有することに関する記述	11 人
ICT 機器活用に関する記述	６人
自分の考えを発信することに関する記述	５人
新型コロナウイルス感染症拡大予防に関する記述	４人
その他	１人

表２より，本小単元での手立てを中心とした取組が有効であったことは，児童がMicrosoft Teamsを使っての仮想オンライン学習と仮想オフライン学習の交互の学びの効果を自覚していることである。特に，本実践では，仮想オフラインで児童が考えたことを仮想オンラインで共有することで，多くの児童の考えに触れることができることを自覚している児童が見られた。多くの児童の考えを共有した上で，話し合いを行い児童の考えの再構築につながったと考えることができる。

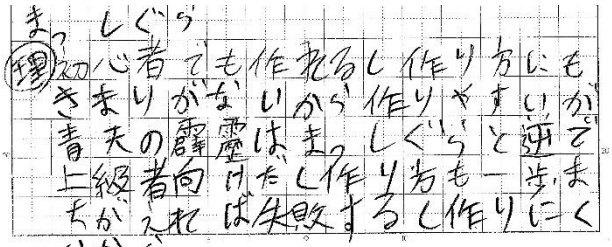
（2） 児童のノート記述から

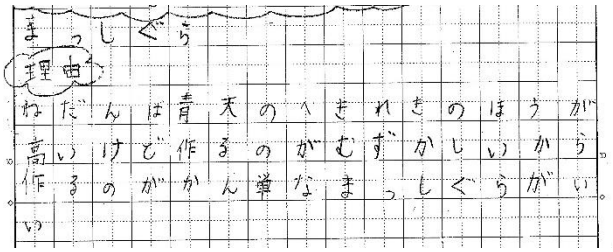
青天の霹靂を選択した児童のノート





まっしぐらを選択した児童のノート





学級全体での話合いの後に，生産者のインタビューを聞いたことで生産者の工夫や努力，思いに対する効果的な理解につながり，さらに様々な立場を勘案した意思決定につながったと思われる。

（3） 授業者の実感として

タブレット端末を用いて Microsoft Teams のチャネル上に自分の考えを投稿し，共有することはこれからの学習においても取り入れてもよいものであり，普段の学びからタブレット端末等の ICT 機器を活用することが大事だと考える。普段の学びからタブレット端末等の ICT 機器を活用することで児童にそれらを用いて学びを進めることの効果を自覚させることができ，さらに活用のアイデアを広げたり，技能を向上させたりすることにつながる。新型コロナウイルス感染症拡大予防による臨時休校やインフルエンザ等による学年・学級閉鎖を行う事態になっても，普段の学びを生かして学びを継続することにつながると考える。実際に臨時休校や学年・学級閉鎖時に際し，ICT 機器を活用した学びを展開するには，内容の精選等小単元の構成の工夫が必要である考えている。